

ED=02900

'16.5.-2

2015年度開講科目

調査実習概要報告書

/

2016年4月14日

| | | | |
|------------------------------------|---------------|------------------------|--|
| 科目担当者氏名 (ふりがな) 今井 信雄 | | 科目担当者連絡先 (メールアドレス) | |
| 連絡責任者氏名 (ふりがな) わたなべ つとむ 渡邊 勉 | | 科目設置機関名 関西学院大学 社会学部 | |
| 授業科目名 | 科目認定番号 | 受講者数 | |
| 社会調査実習 I | KSGa-150702-0 | 20 | |

| |
|--|
| I. 調査実習に関するコメント |
| <p>学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：調査テーマの検討・設定から報告書の作成まで、質的調査とくにフィールド調査のすべての過程を経験することができた。5つのグループを構成し、調査を行った。ただし、「京都の文化」に関する調査を行った班で、文化そのものに対する考察が不十分な場合が見られた。それ以外のテーマで調査を行った班についてはおおむね、十分な分析が行うことができた。</p> |
| II. 調査の企画・設計 (デザイン) |
| <p>1. 調査のテーマ/領域：地域社会とコミュニティ</p> <p>2. 調査の内容/概要：受講者みずからが調査テーマとして設定した「地域の祭り」「過疎地における観光化」「地方鉄道と活性化」「京菓子の現代的意味」「京鮎と京都文化」について、質的調査。</p> <p>3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：門戸厄神駅周辺地域の地域組織、篠山市丸山集落、神戸市栗生線関係者、京菓子店舗、京鮎店舗。それぞれの問題意識に応じて、対象者を選定。</p> <p>4. 主な調査項目：生活環境、ライフコース、職業意識、家族に対する意識、労働環境、意識、など。</p> |
| III. データ収集の方法と結果 |
| <p>5. データ収集 (現地調査) の方法：質的調査法。インタビュー調査。資料収集。参与観察。</p> <p>6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2015年8月～12月まで断続的に実施。4名で1グループ。5グループ結成。</p> <p>7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：十分に調査データを収集、考察できた班と、そうでない班の差が見られた。班ごとの取り組みに大きな差がみられ、それがデータの質にも影響を与えたと考えられる。</p> |
| IV. データ分析の方法と結果 |
| <p>8. データ分析/解釈の方法：インタビュー調査および文献による分析。</p> <p>9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：5つのグループごとに異なっているが、共通して言えるのは、地域組織が複合的に動き、地域文化を形成していると言うことである。とくに門戸厄神周辺地域の組織化の過程を把握し、そのうえで祭りが行われているとの知見を導き出した班については、貴重なデータであると言える。</p> <p>10. 報告書刊行の予定と概要：すでに印刷し調査対象者に送付予定である。</p> |

- <記入上の注意点>
1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
 2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。
 3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。
 4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。